

令和6年度 西東京市立けやき小学校 学校評価報告書									
学校教育目標		◎学び合う子(重点目標)□							
確かな一歩		○つながり、支えあう子□							
		○健康でたくましい子							
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】		・学校しっとり、子どもニコニコ、先生生き生き、地域とともにある学校							
【目指す児童像】		◎「学び合う子」 互いの思いや考えを大切にし、学びを楽しむ子 ○「つながり、支えあう子」 積極的に仲間や集団と関わり、共に成長する子 ○「健康でたくましい子」 心身の成長と健康に興味関心をもち、毎日の学校生活に前向きな意欲のある子							
【目指す教師像】		・充実した授業づくりを第一として学びあう教師 ・「あったか先生」として地域・保護者に信頼される教師							
前年度までの学校経営上の成果と課題									
(成果) 新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら学校行事等の教育活動を見直すことができたこと。									
(課題) 人材の育成と保護者及び地域に教育活動を発信し、理解・啓発を更に図ること。									
		第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策	
		努力目標 (教職員)	成果目標 (保護者)		努力目標 (教職員)	成果目標 (保護者)			
学 び に 向 か う 力 の 育 成	・授業におけるユニバーサル・デザイン化を図り、児童にとってわかりやすい授業を実施する。	4	3	わかりやすい授業、学びのある授業がされていると、児童からも保護者からも9割近々の評価を得ている。教員も校内研究を重ねる中で、ユニバーサル・デザイン等の手立てを通した授業づくりに自信を高めている。今後も、わかる授業、知識や考える力を高める授業を目指して、研究・研鑽を深めていく。	4	3	・どの授業でも黒板に「めあて」がしっかり書かれている。やるべきことが子どもにわかってよい。 ・授業参観で授業の工夫がわかる。 ・デジタル教科書は有効だと思うときに使うでよいと思う。紙面との併用をすすめてほしい。 ・タブレットの使用がすすんできている。取組については家庭に知らせながら行っているというのではない。 ・図書室の在り方が変わってきている。先生方のおすすめの本を掲示したり、読み聞かせや読書記録、多読賞の表彰など工夫がたくさん見られる。多目的ホール前に掲示されている「学年の目標冊数に達した児童の数」を見た外部の人たちが多さに驚いていた。	「わかりやすく学びのある授業が行われている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均88％であった。校内研究と日々の授業力改善、教員同士での授業公開が授業力向上につながっていると考えられる。校内研究を通して学習指導上の課題を検討・分析・改善をし、どの子にもわかりやすく、資質・能力を高める授業を目指して取り組んでいく。ユニバーサル・デザインに関しては、けやき教室との連携を深める中で、目の前の子どもの思考に沿った最適な手立てを考え実践していく。	
	・学習でデジタル教科書やタブレット等のICT機器を適切に活用する。	3	1	デジタル教科書は、市の施策の下、各教科での活用を昨年度にも増して進めている。また、タブレットについては、教員の研究により年を経るごとに活用の幅が広がっている。児童のおよそ9割が「必要な場面でタブレットを使える」と考えており、「文房具」としての意識が定着しつつある。一方で、活用の様子が見えづらく、把握しづらいことから保護者の評価は高まっていない。授業参観や家庭学習での活用場面を検討していく。	3	1	・タブレットの活用がすすんできている。取組については家庭に知らせながら行っているというのではない。 ・図書室の在り方が変わってきている。先生方のおすすめの本を掲示したり、読み聞かせや読書記録、多読賞の表彰など工夫がたくさん見られる。多目的ホール前に掲示されている「学年の目標冊数に達した児童の数」を見た外部の人たちが多さに驚いていた。	「デジタル教科書やタブレット等のICT機器が有効に使われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均56％、「わからない」と回答した保護者は27％であった。活用について保護者に伝えていくことが課題である。学校通信や学年・学級通信等の便り、また、授業参観日や保護者会等の機会を通して、ICT機器の活用の実際について周知していく。また、タブレットの活用については、児童、教員共に必要な場面できている。今後は児童がより学びに向かうための活用ができるよう、効果的な活用方法を検討していく。また、デジタル教科書は今後も紙の教科書と併用し、必要な場面で運用していく。	
	・児童が読書に親しんだり、読書習慣を身に付けたりできるよう指導を工夫する。	4	2	読書週間に年に2回計画し、図書委員会を中心に活動を工夫したり地域の方に読み聞かせの協力をいただいたりしている。また、多読賞の表彰を推進することで、児童の読書への関心、意欲は高まっている。一方で、読書の習慣に関する保護者による肯定的な評価は6割程度に止まっている。学校での活動が家庭での読書習慣にはつながっていない。夏休みに実施した「いっしょ読書」のように、家庭での読書につながる取組をさらに検討していく。	3	1	・子どもが読書週間に身に付ける指導が行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均65％であり、家庭で読書の姿があり見られないという保護者の声もある。学校・家庭両方での読書習慣を付けていくことが課題である。読書週間を中心とした図書委員会の活動、けやき応援団による読み聞かせ、全校朝会での多読賞の表彰を推進したことにより、児童の読書への関心、意欲が高まった。今後、各種便りや保護者会等で活動内容、成果を伝えていくことで、家庭を含めた読書活動が広がり読書習慣につながっていくよう今後も努めていく。	「子どもが読書週間に身に付ける指導が行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均65％であり、家庭で読書の姿があり見られないという保護者の声もある。学校・家庭両方での読書習慣を付けていくことが課題である。読書週間を中心とした図書委員会の活動、けやき応援団による読み聞かせ、全校朝会での多読賞の表彰を推進したことにより、児童の読書への関心、意欲が高まった。今後、各種便りや保護者会等で活動内容、成果を伝えていくことで、家庭を含めた読書活動が広がり読書習慣につながっていくよう今後も努めていく。	
人 間 関 係 力 の 育 成	・「西東京市子ども条例」や学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に取り組む。	4	1	本校の「学校いじめ基本方針」については、1学期の保護者会で、全学年で内容の説明を行った。今後も繰り返し伝えていくことで保護者の周知を図る。また、今後も保護者の相談に丁寧かつ迅速に対応し、いじめの早期対応を心掛ける。	4	1	・自分の子どもと、学校全体はちがうので、保護者の評価で「分からない」が多くても仕方がない。「分からない」を除いて肯定的評価が多ければ良いのではないだろうか。 ・いじめに関しては被害者、加害者ともにプライバシーがあり、公表も難しいことから、アンケートでは「分からない」となってしまう。我が子が関わらなければ「分からない」となる。 ・昔は学級に「連絡網」があり親同士が直接やり取りをすることもできた。全て学校を介してでないと解決できないので学校は大変だと思ふ。 ・「いじめ」について、保護者アンケートで「わからない」が多いが、学校は予防的に行っていることも伝えていくというのではない。	「いじめ防止やいじめに対する指導が行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均63％、「わからない」と回答した保護者は31％であった。「わからない」の割合が多いが、当該者になっていないため「わからない」という回答になっていると考えられる。今年度においても、いじめ重大事案は1件もなく、予防策の効果や生活指導主任等を中心とした組織対応が効果的だったと考えられる。また、年度当初の保護者会で「学校いじめ基本方針」については、重要箇所を抜粋して口頭で説明をする形をとり周知した。来年度も学校の対応や予防策についても保護者に周知していく。	
	・学校では決まりにそったけじめある生活が送れるよう指導していく。	4	3	「けじめのある生活」において、保護者の肯定的な回答は84％と高い評価であった。おおむね学校ではけいじめのある生活が送れている。今後も全校朝会や学級指導において、けやき小のきまりや月目標を示して意識させる機会を設定し指導していく。	4	3	「けじめのある生活がなされている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均84％であった。けじめのある生活が概ね送れている。全校朝会において、毎月の初めに生活指導部の教員が、今月の生活目標について話をしている事も効果の要因と考える。来年度も全校朝会の場をを有効的に活用するとともに、日々の生活指導の中で繰り返し指導を続けていく。	「けじめのある生活がなされている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均84％であった。けじめのある生活が概ね送れている。全校朝会において、毎月の初めに生活指導部の教員が、今月の生活目標について話をしている事も効果の要因と考える。来年度も全校朝会の場をを有効的に活用するとともに、日々の生活指導の中で繰り返し指導を続けていく。	
	・気持ちのよい挨拶ができるよう挨拶を励行する。	3	2	「子どもは気持ちのよい挨拶ができる」と肯定的に感じている保護者は77％であった。子どもたちが学校内外においても、気持ちのよい挨拶ができるよう引き続き道徳や学級指導で挨拶の大切さを子どもたちに考えさせ、実践させていきたい。	1	2	・「挨拶」の項目で、先生方の評価が「3」→「1」になっているのはどうしてかと思ったが、3名の評価が下がったことがわかった。 ・挨拶をしなくても返ってこない時がある。子ども同士でおしゃべりをしていて気付いていないこともあるように思う。	「気持ちのよい挨拶ができるようになっていく」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均77％、肯定的な教職員の回答は年平均75％であった。共に7割であることから挨拶の励行は課題である。児童の様子を見るや年度末に向けてだんだん挨拶の声が聞こえるようになっていく。年度当初から大きな声で元気よく挨拶ができるように、各学級で生活指導を行う。さらに、計画代表委員を中心にして、挨拶についてのキャンペーンなど児童が中心になって行う取組もできるようにしていく。	
健 康 で た く ま い し い 子 の 育	・家庭と連携しながら「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的生活習慣の定着を図ったり、運動の習慣の定着を図ったりできるよう工夫していく。	3	2	年間3回、学期初めの週に「もぐもぐ・すやすやカード」の取り組みを実施し、児童の実態を把握しながら、基本的生活習慣の意識を高めていく。特に長期休業日明けの生活リズムを整えるために、食事や睡眠を意識させていく。運動週間の定着化を図るため、今年度は「大縄」「短縄」「持久走」週間を各学期に設けた。取り組みのカードなどを活用して全校体制で様々な運動経験の実践を継続的にやっていく。食に関する年間指導計画の見直しを図っている。	4	2	・「もぐもぐ・すやすやカード」の取り組みは、保護者や子どもの意識付けになっていると思う。朝食の話をしてくれるときもある。 ・子どもたちはよく外で遊んでいると思う。身体を動かすが多いと思う。 ・先生方は子どもに対して丁寧に指導している。トラブルがあったとき、両者によく聞き取っている姿を目にしている。 ・自分の子が関わらなければ「分からない」となる。 ・教職員は勤務時間を過ぎても保護者と丁寧に連絡を取っている。	「子どもの健康や体力増進のための取組みが行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均79％であった。運動週間では1学期「長縄」、2学期「短縄」、3学期「持久走」を実施した。運動週間中、発達段階に応じた取り組みカードを全校で取り組むことで、モチベーションが高まり、意欲的に行う児童が多かった。休み時間や体育の授業時を活用して継続して取り組むことで、運動の日常化を図ったり、様々な動きを経験させたりすることができた。「運動」の日常化と「朝食・睡眠」の意識付けを行っていくことが課題である。今後も「朝食・睡眠」の大切さについて学級や保健指導などでも継続して行っていく。また、学年の系統性や各教科との関連をふまえて検討した食育計画を次年度実施していく。	
	・保護者と連絡を取りながら、個に応じた指導の充実に努めていく。	3	3	児童の様子については、教職員同士で情報共有を密にし、学習面や生活面・健康面等で児童の様子に合わせ、必要な支援や配慮を行っている。今後も、教員間での共有と児童の様子に合わせた対応を行っている。	4	1	「学校は個に応じた指導に努めている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均75％であった。否定的な保護者の回答は年平均15％である。引き続き、保護者と連携し、日々丁寧な指導や声掛け、必要に応じた配慮をしていくことが課題である。学習面や生活面・健康面における児童の様子については、学年間を中心に教職員同士で情報共有を密にし、必要に応じた配慮を行う。必要に応じて専門機関との連携も継続して行っていく。	「学校は個に応じた指導に努めている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均75％であった。否定的な保護者の回答は年平均15％である。引き続き、保護者と連携し、日々丁寧な指導や声掛け、必要に応じた配慮をしていくことが課題である。学習面や生活面・健康面における児童の様子については、学年間を中心に教職員同士で情報共有を密にし、必要に応じた配慮を行う。必要に応じて専門機関との連携も継続して行っていく。	
働 き 方 改 革	・教職員は丁寧に丁寧に対応し、誠実に相談等に応じよう心掛ける。	4	3	「教職員の対応は丁寧で、相談等に応じている」という項目においては、保護者の85％が肯定的な回答であった。また、全教職員の肯定的な回答は100％であった。今後も引き続き、丁寧に丁寧に対応したり誠実に応じるたりすることを心掛けていく。	4	3	・教職員の対応は丁寧に丁寧で、誠実に相談等に応じている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均87％であった。各種行事等のアンケートや学校評価アンケートの回答、個人面談・連絡帳などでのやり取りの他、日常的に教職員が保護者との連絡をとっていることが要因と考えられる。児童が安全で、安心して学校生活を送り、より学習に注力できるように、今後も保護者との連絡、細やかな対応を心掛けていく。来年度は「教育相談日」を設け、保護者の相談に応じていく。	「教職員の対応は丁寧に丁寧で、誠実に相談等に応じている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均87％であった。各種行事等のアンケートや学校評価アンケートの回答、個人面談・連絡帳などでのやり取りの他、日常的に教職員が保護者との連絡をとっていることが要因と考えられる。児童が安全で、安心して学校生活を送り、より学習に注力できるように、今後も保護者との連絡、細やかな対応を心掛けていく。来年度は「教育相談日」を設け、保護者の相談に応じていく。	
	・教員は授業や教材の工夫をして、日々の授業の充実に努めていく。	4	3	「教員は工夫して授業を行っている」という項目に対しては、保護者の80％が肯定的な回答であった。また、全教職員の肯定的な回答は100％であった。今後も引き続き、教材の工夫をし日々の授業の充実に努めると同時に、子どもたちに対して効果的な教育活動を行っていく。	4	3	・先生方が子どもや授業に向かう時間が多くとれるよう、関係者として協力したい。	「教員は工夫して授業を行っている」という項目においては、肯定的な保護者の回答は年平均81％であった。担任の努力とともに、保護者、地域、けやき小学校地域学校協働活動(けやき応援団)など、多くの方々の協力によって、教育活動を進めることができた。今後も、様々な方々と協力しながら、行事や教育課程のスクラップビルトを心がけ、児童にとって充実した授業、教育活動が行えるようにしていく。また、DX、ICTの活用を通して、学校からさらに細やかに情報を発信するとともに、それに伴う業務の効率化を図り、児童に接したり、授業準備に充てられる時間を充実させていくようにしていく。	
信 頼 さ れ る 学 校	・教職員は話す声のトーンを落としてたり、聴くことを大切にしたりすることで、学校全体として落ち着いた雰囲気となるよう努める。	4	3	「学校は全体として落ち着いていて、好ましい印象を受ける」という項目において、保護者からの肯定的な回答は平均84％であった。今後も全教職員がすべての教育活動においてしっかりと話すことを意識し、聴くことを大切にする指導を継続していく。	4	3	・学校の教育活動を見てきて、聴くことを大事にしていることがよく伝わる。 ・先生方の授業や指導の際の声のトーンは穏やかだと感じる。 ・学校評価については、集計の仕方や、評価基準の数値の見直しも必要ではない。 ・施設の劣化や不備があるとすぐに対応してくれるので安心感がある。 ・安全対策や事故防止に取り組んでくれているので大きな事故が起こっていない。	「学校は全体として落ち着いていて、好ましい印象を受ける」という項目において、保護者からの肯定的な回答は年平均82％であった。全教職員がすべての教育活動においてしっかりと話すことを意識していることが要因と考える。今後も、全教育活動で聴くことを大切にする指導を継続して行っていく。	
	・施設や設備の安全対策や事故防止を適切に行う。	4	2	「施設・設備の安全対策や事故防止に取り組んでいる。」という項目において、保護者からの肯定的な回答は79％であった。しかし、「わからない」という回答が19％で、学校で行っている安全対策や事故防止のための取組が十分伝わっていないことが課題である。安全対策や事故防止の取組について保護者と共有しながら取り組んでいく。	4	2	・施設の劣化や不備があるとすぐに対応してくれるので安心感がある。 ・安全対策や事故防止に取り組んでくれているので大きな事故が起こっていない。	「施設・設備の安全対策や事故防止に取り組んでいる。」という項目において、保護者からの肯定的な回答は年平均79％、否定的な回答は年平均2％であり、安全対策に対する評価を得られていると考える。しかし、「わからない」という回答が、年平均19％あることから、学校で行っている安全対策や事故防止のための取組をより周知していくことが課題である。次年度も引き続き、学校通信やHPで具体的な取組の配信を多く行い保護者に周知していく。	
	・教育方針や日常の様子等、適切に情報発信をしていく。	4	3	「必要な情報発信がなされている」の項目においては、保護者からの肯定的な回答は85％であった。半数以上のクラスで学級通信を配信したり、図書や給食、保健室等からもお便りを配信したりしている。今後も学校・学級通信やお便り、HP、メール等を活用しながら、必要な情報を配信し、日常の様子等を適切に情報発信をしていくことを心掛けていく。	4	3	・学級だよりを多くの先生が出していて、クラスの様子がわかりやすい保護者の声を多く聞く。 ・すぐへの配信や毎日のHP更新など情報配信がよくされている。	「必要な情報発信がなされている」の項目においては、保護者からの肯定的な回答は年平均83％であった。今年度は「すぐーる」を活用したり、学級通信や図書や給食、保健室等からもお便りで必要な情報や学校の様子を配信したりしてきた。次年度も、学校・学級通信やHP、「すぐーる」等を活用しながら、細目に情報を配信し、教育方針や日常の様子等、適切に情報発信をしていくことを心掛けていく。	